

## 飛驒農林事務所の普及活動状況（飛驒版）

平成30年4月30日現在

### 今月の重点活動

#### ■果樹 安全・安心研修会を開催

4月26日、JAひだ果実出荷組合協議会は、組合員を対象に農業生産工程管理（GAP）の導入に向けた研修会を開催し、39名が参加した。

研修会では、農業普及課からGAPに関する基本的な内容の説明や岐阜県GAPを基に作成したチェックシートに関する質問事項、注意点を説明した。事前に組合員から得た事例を基に説明を実施することで、安全・安心な飛驒果実産地の維持発展に向けて生産者のGAPの取組み意識の向上を図った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、GAPチェックシートの配布や情報提供を行い、GAPの取組み支援を実施していく。



【研修会の様子】

### 多様な担い手づくり

#### ■担い手 就農に向けてパワーアップ！！ ～第1回飛驒就農支援塾開催～

飛驒地域農業再生協議会（人・農地プロジェクト）では、飛驒及び下呂管内で研修1年目の長期研修生8名を対象に「飛驒就農支援塾」を開催した。

飛驒就農支援塾1回目として、高山市で4月16日に、就農に関する各種支援策について研修会が開催された。4月20日には、長期研修生から自己紹介をした後に、和仁就農・就業アドバイザーから「飛驒の農業者になるために」をテーマに、その他関係者からは「各種支援事業」「農作業安全」、「農業の基礎知識」等の内容で講義をいただいた。農業普及課では、「研修中の留意事項とスケジュール」について説明を行った。

今後、12～2月にかけて、GAP、ぎふクリーン、労務管理、土壌診断、病害虫対策、農産物流通、植物の生理生態、ハウスの建て方等、就農に必要な知識の習得を目指している。農業普及課では研修会の企画・運営に主体的に関わって支援する。



【就農に向けた決意を述べる研修生】

#### ■果樹 高山市果実組合青年部の行事検討会を開催

4月19日（木）に高山市果実組合青年部が今年度の事業検討会を開催し、青年部員7名が検討を行った。

検討会では、昨年度新たに2名の部員が増えたことを受け、例年実施している県農業フェスティバルへの参加に加え、部員間の連携強化と技術向上を図る事を目的に、視察研修の実施について青年部長から提案された。

視察先については、各青年部員から活発に意見が上がり、農業普及課からも他の視察先やルートの提案を行うことに加えて、視察以外の青年部活動についても提案を行った。今後も青年部員の連携強化と技術向上に向けた支援を行っていく。

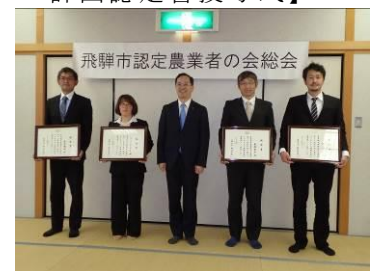
## ■認定農業者 **新たに16名が認定農業者に**

高山市では4月12日、飛騨市では4月10日に新規に認定された認定農業者への認定書授与式が開催され、新たに16名の認定農業者が誕生した。4月12日の高山市農業経営改善計画認定書授与式では、12名（1法人を含む）が認定農業者として認定された。また、4月10日の飛騨市認定農業者認定書授与交付式では、昨年度新規に認定された4名（1法人を含む）に都竹市長から認定書が授与された。

農業普及課では、両市と連携して、新規に認定された認定農業者の経営改善計画の実現に向けて支援を継続するとともに、更に新たな認定農業者の誕生に向けて候補者の掘り起しを行っていく。



【高山市農業経営改善  
計画認定書授与式】



【飛騨市認定農業者認定書  
授与交付式】

## ■夏秋トマト **J A ひだ飛騨トマト研修所2期生 いよいよ栽培開始**

飛騨トマト研修所の2期生2名が、研修期間（2年間）を修了しこの4月に就農した。就農までには技術習得、農地確保やハウス建設など多くの課題があったが、研修生本人の努力やJ A ひだを始め多くの関係機関の重点的な支援により経営開始が実現した。

2期生は経営初年度にあたり多くの準備作業に追われながらも、ポットへの土詰め作業や仮植作業その後の管理も計画的に進め、順調なトマトの生育を確保している。

農業普及課では、新規就農者を重点支援の対象とし、詳細な栽培状況の把握と適正管理の助言、新たな技術情報の提供などを行っている。



【仮植後の管理技術支援】

## ■夏秋トマト **高山トマト青年部育苗施設視察研修会**

高山トマト部会青年部では4月9日に飛騨セルトップの視察研修会を開催した。トマトセル苗管理の特徴や接木技術のポイントなどについて説明を受け、品質の良い苗管理について理解を深めた。

出席した青年部員からは、「着果節位を安定させる要因がよくわかった」など意見が聞かれ、今後の栽培技術に生かしていけると好評であった。

農業普及課では、特に就農3年目までの担い手の育成に力を入れていく。



【青年部視察の様子】

## ■夏秋トマト **丹生川トマト部会新規生産者研修会**

丹生川トマト部会ではここ数年部会員数が増加傾向にあり、直近3年間で約15名の新規生産者が就農している。4月26日には丹生川トマト部会事業として就農1年目、2年目新規生産者を対象に栽培研修会が実施された。研修会では基礎知識の習得を目的に農業普及課から今後の栽培管理に加え、土壌、病害虫、GAP等について説明を行った。

今後も収量確保に向けた新規生産者に対する重点的な巡回指導を実施し、早期の経営安定をめざしていく。



【研修会の様子】

## ■ほうれんそう **若手グループの活動検討会開催**

4月16日、JAひだ高山営農センターにて高山ほうれんそう部会研究班の若手（20～30代）の生産者が集まり、生産上の課題解決に向けた今年度の活動について話し合う会議を開催した。他地域で高単収を上げている生産者の圃場視察や、土壌物理性改善を目的とした緑肥作物の実証について取り組むことなどが決定された。産地の将来を担う若手がやりがいを持ってほうれんそう経営に取り組めるよう、農業普及課として支援を継続していく。



【検討会の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 **JGAP認証に向け活動開始**

（株）アグリランドでは米等土地利用型作物のJGAP認証に向け活動を開始しており、4月19日に当社事務所にて農場用管理点と適合基準について確認、今後の計画について打ち合わせを行った。

農業普及課では、JGAP指導員資格を所持する職員が中心となり、各取組項目の内容等を説明、基準に適合するための助言を行った。適合基準では現行で既に取り組んでいる項目、今後準備を進めなければならない項目が明確となり、認証に向けての第一歩となった。

今後は準備が必要な項目について指導し、年度内の認証に向け支援を行っていく。



【適合基準の説明他】

## ■水稲 耕畜連携強化に向けてイネWCSの品質向上

飛騨地域では、耕畜連携の一環としてイネWCSの生産拡大を推進している。畜産農家の理解が得られイネWCSの利用が増えているが、品質面の問題を指摘される事例が発生している。

農業普及課では、農業振興課畜産係と協力し、耕種農家により生産されたイネWCSの飼料分析を実施し、今回、分析結果をもとに品質向上に向けて指導を行った。4月6日に高山市内の生産者、12日に飛騨市内の生産者を対象に行い、農業経営課の丸山農業革新支援専門員から分析結果をもとに改善点の説明を受けた後、品質向上のための栽培方法を検討した。今後も畜産関係機関と連携して良質なイネWCSの生産拡大を支援していく。



【イネWCS飼料分析  
事後指導（飛騨市）】

## ■夏秋トマト 栽培履歴のGAP対応様式への変更

4月19日に飛騨野菜出荷組合トマト部会の役員会が開催され、その中で栽培履歴のGAP対応様式への変更について説明した。

これまでの栽培履歴に散布者や天気等の使用状況についての記載欄や肥料や薬剤などの在庫管理表を追加し、GAPに取り組むうえで必要な項目が記載できるようにした。

今後、各地区でも履歴のGAP対応に関する研修会を開催し、GAPに対する意識を高めてもらう。

農業普及課は関係機関と連携し、さらなるGAP推進に向けて支援していく。



【役員会の様子】

## ■ほうれんそう 目揃え会における病害虫対策

4月、飛騨ほうれんそう部会の目揃え会が各地区で開催された。農業普及課からは、この時期に発生が問題となるハウレンソウケナガコナダニの対策、曇雨天が続くと発病が多発するべと病、白斑病といった病害虫対策に関する指導を行った。

今年は高温となる日が多く、播種時期が例年より早まっております。ほうれんそうの生育も全体的に前進化している。本部会は目標として「単収：みんなが1,000箱以上」を掲げ、単収向上を目指している。農業普及課として、高品質なほうれんそうを安定的に出荷できるよう支援していく。



【普及課の指導の様子】

## ■ 飛騨牛 **JGAP（家畜・畜産物）の実践研修**

4月20日、革新支援専門員が下呂市の肉用牛繁殖肥育を行う法人の従業員に対して、JGAP（家畜・畜産物）の研修を行った。

当法人では、GAPを実践することで飛騨牛生産工程の自己点検と経営改善に活用したいと考えており、今回研修を開催することとなった。参加者からは、これまで取組んできた農場HACCPとの相違点やGAPでは通路や飼槽など施設・設備の基準があるかなど具体的な質問もあり、これからも革新支援専門員がJGAP指導員として定期的に指導することとした。

今後は、他農場も含めGAPの実践レベルの向上とGAP認証取得を推進する。



【法人にてJGAP（家畜・畜産物）を説明】

## ■ 酪農 **飛騨酪農での経営改善のための個別面談**

4月2～4日、飛騨酪農農業協同組合に於いて、酪農家の個別面談を15戸実施した。

本面談では各酪農家の牛群検定成績表に基づき、飼養管理、乳質・衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良の観点から総合的に経営改善を指導した。面談実施は今年で3年目を迎え、大半の酪農家では乳量の増加が認められている。

革新支援専門員は家畜保健衛生所、（一社）岐阜県畜産協会、飛騨酪農農業協同組合等と連携して定期的に酪農家の飼養管理の指導を行うことで経営改善に努める。



【酪農家の個別面談】

## ■ 肉用牛・自給飼料 **自給飼料を主体とした肉用牛繁殖肥育一貫経営での飼育状況の調査**

4月25日に飛騨市内の肉用牛繁殖肥育一貫経営法人に於いて、畜産研究所と伴に自給飼料を主体とした繁殖部門の飼育状況について調査を実施した。

本法人は繁殖部門では自給飼料を主体とした飼育管理を実施しており、堆肥は牧草地へ施肥している。畜産研究所の研究成果では堆肥の過剰施肥により牧草のミネラルバランスが崩れ、これに起因する肉用牛の繁殖障害が危惧されるため、その実態調査を実施した。

本法人は堆肥を適正に施肥し、土壌改良剤の散布も実施しており、繁殖牛の血液成分は正常値であった。革新支援専門員は畜産研究所と連携して、適正な堆肥利用に取り組む。



【自給飼料を主体とした肉用牛飼育状況の調査】

## 住みよい農村づくり

### ■ 鳥獣害対策 朝日町宮之前団地で獣害防止体制づくり

高山市朝日町宮之前団地では4月17日に、生産者6名と農業普及課が耕地全周約3,700mの獣害防止柵を点検、整備した。宮之前団地の獣害防止柵は1.2mの金網柵の上に電牧線3本が張ってある構造だが、積雪で金網柵がたるんでいるため、電牧線との間に広い隙間ができていた。昨年はその隙間からサルの侵入があり、200万円近い被害があった。生産者でつくる宮之前団地管理組合では、昨年初冬に県鳥獣被害対策アドバイザー・農業普及課の協力により設置した、すき間防止器具の越冬試験がうまくいっていることを確認した後、柵全周を修繕しながら点検した。その後、農業普及課の研修後、電圧チェックの当番と修繕の受け持ち区間を決定し、組合員自身による電気柵の機能維持体制を整備した。

今後は隙間防止器具を導入設置し、万全の体制で作付に臨む予定である。



【隙間防止が自衛体制の前提】